

寄宿舎のある学校の魅力と役割
—子どもたちが語っていること—
福岡女学院大学 猪狩 恵美子

1. わたしと寄宿舎

- 施設隣接の学校で
- 寄宿舎統廃合問題のなかで
- 寄宿舎のある特別支援学校に転勤して

「きのう、3号室でさあ、●●先生がさあ、・・・んだよ」

「えええ！ そうなの？ だって、▽▽くんって・・・じゃん」

寄宿舎のできごと・人間関係が次の日の教室で みんなの話題になって盛り上がる。

教室・学部だけでない、ちょっと別で、ちょっとつながっている寄宿舎がある。

2. 病弱養護学校の魅力・役割

(1) A 病弱養護学校の魅力と役割

わかる勉強

生活リズム

おとな・仲間との信頼関係

寄宿舎のある小さな学校

→そのなかで自分と出会い直し、新しい一歩を踏み出す

(2) 90年代以降の病弱養護学校の実態

不登校経験・養育困難・心身症・・・発達障害

→寄宿舎のある病弱養護学校の実践の深まり

→「本来の病気の子どもの学校ではなくなった」

＝寄宿舎のある病弱養護学校の統廃合問題

(3) 特別支援教育と寄宿舎の可能性

3. 寄宿舎のある学校の魅力・役割

「子ども理解はたやすいものではない」 茂木俊彦（2011）障害のある子どもの理解と教育指導．障害者問題研究 39 巻 2 号，82—89.

「・・・個々の子どもの障害や発達の状態を把握するのは簡単ではないという自覚があつてこそ、完全ではないが（そのようなことはありえない）、より十分な把握へと向かって努力することを私たちが自らに課す契機となるからである。」

→「子どもと向き合い、子どもに尋ねる」

子どもにとっての寄宿舎の意味

保護者にとっての寄宿舎の意味

教職員にとっての寄宿舎の意味

4. 寄宿舎のある学校の魅力ーこれまで、いま、これからー

(1)「第三の場所」「第三の世界」

(2) 家族支援

(3) 生活の安定・生活づくり

(4)「場所」のなかみ・質が肝心
放課後デイの広がりの中で

「行動の変容」が求められる中で

5. きっとキーワード・・・「楽しんでますか、いま」

「将来のためにがんばる」「学校出たら厳しいんだから」

いまを楽しむ

楽しい生活をつくる

いやなこともある・・・「失敗してもいいんだよ」「“いや”と思ってもいいんだよ」

思春期に向かい、思春期をゆたかにふくらませ、青年期に向かう「自分さがし・自分づくり」

6. 寄宿舎をめぐるこれからの展望

インクルージョン時代の寄宿舎

障害者の権利条約時代の寄宿舎

「共に育ち合う」

「こころとからだ、そして、生活の主人公を育てる」

子ども自身の「自分づくり」とおとなの「自分づくり」

「地域」に見える寄宿舎、「地域」が見える寄宿舎

7. 障害児と家族の生活をめぐる今日的課題

(1) 「生活の貧困」

(2) 「通学困難」の枠

(3) 子ども・家族のねがい・ニーズ

①見えるものを見る－見えないものを見る、見ようとする

多様性、経済的・文化的差異への感度の弱さ

「学校が好きだから、教員になる」という感覚だけでは進めない現実

②子どもの声を聴きとり、

生きづらさ、苦しみ・痛み・葛藤を共感的に受け止め、

ともにゆたかに生きることを追求する

③つなぐ・つなげる・つながる－民主主義の今日的意味

おわりに

寄宿舎のある学校を、民主主義と権利、子どものしあわせを守る拠点に。